

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

Our Life 158号

静岡福祉文化を考える会事務局

〒424-0841

静岡市清水区追分3-5-17 NPO法人泉の会内

Tel:054-367-2878 Fax:054-367-2884

* 内 容 *	➢ 「ご近所福祉」から誕生した「浪蔵劇団」 このたび430回公演実現…………… P.1
	➢ シリーズ①「静岡発福祉文化の創造」30年の活動検証報告書を覗く……………P.2
	➢ 静岡発 福祉文化の創造30年を総括する「研修会」のご案内……………P.3
	➢ 8月本会ブログアクセス件数・事務局日誌拝見・編集後記……………P.4

平成21年度 静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(高齢者孤立ゼロ対策事業)」で、県内唯一「小川第11自治会」が「ご近所福祉事業」に取り組み【浪蔵劇団】誕生……あれから、16年、なんと、このたび、430回公演が実現した

本会は、平成20年度から平成26年度までの7年間、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(高齢者の孤立死・孤独死防止事業)」に取り組んだ。当時、大きな社会的な問題となっていた高齢者の孤立・孤独をいかに防ぐか、静岡県からの要請を受けて、「調査研究事業」「啓発活動・公開型研修会事業」そして「実践モデル地区事業」を主な事業として、県民に向けた事業を展開した。

7年間の事業の展開を、単なる机上論で終ることなく、それぞれの地域性をもとに、検証することを事業計画に位置付け、県内の各市町に「モデル実践地区」をお願いした。

2政令市を除くと、33市町(21市12町)のうち、14市(全体の67%)5町(42%)で、計19市町(58%)が精力的に取り組んでいただいた。この「実践モデル地区事業」は、ほとんど、市町社会福祉協議会に相談をして、承諾をいただいたそれぞれの市町から、関連地区をお願いして取り組んでいただいたが、当時、ご縁のあった小川第11自治会顧問の山口浪男氏に直接本事業について相談し、当時の自治会長様の了解を取りつけていただき、受託2年目(平成21年度)に、唯一、焼津市小川第11自治会は、自治会独自の取り組み事業を受け入れていただいた。この年度の「実践モデル事業地区」は、県内4地区で取り組んでいただいた。



*平成21年度に、小川公民館(現小川地域交流センター)にて、「ご近所福祉 IN 小川」が盛大に開催された

*430回を演じる山口氏

地域社会では、「福祉」は他人の認識が強く、特別な領域、難しい領域としか受け止められない状況にある中で、福祉に見える化・わかる化し、共感とともに感動を与える地域福祉教育の学びの場として、地域の課題を自治会役員等が演技をし「市民劇団」を立ち上げられた。それから16年が経過し、「浪蔵劇団」が、7月13日(日)に、小川地域交流センターで、第430回の公演が実現した。こうした尊い活動には原点がある。

山口浪男氏は、92歳を生き生きと演じていた。感謝である。



●シリーズ①「静岡発福祉文化の創造」30年の活動検証報告書を覗く

本会は、「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡を検証する」を2025年度の活動テーマに掲げ、これまでの30年間の道程を2023年度から現在まで、3年間検証準備作業に取り組んできた。

これからの共助社会再構築の提言として「人間らしい豊かさ実践30年検証報告書—静岡発 福祉文化の創造軌跡30年・草創期からご近所福祉検証期を辿る—」の作成作業に4月から本格的に取り組み、12月発行目標に、編集(第1章から第9章・資料編、本文264P)作業中である。本号から、シリーズで、「検証報告書」の内容(概要)を掲載する。

シリーズ①は「第1章「静岡発 福祉文化の創造の原点を辿る」

1「福祉文化」が語られる動きの中で、「第11回学会現場セミナー」開催が本会結成につながる

平成元年(1989年)7月16日に「福祉文化学会」(現 日本福祉文化学会)が発会された。

学会は、「異業種交流的集団で、誰でも、気軽に福祉あれこれを和やかに語り合える学びの場」であることを知った。昭和の時代から平成の時代に入り、大きく社会福祉の仕組みが変わり、制度や資格で社会の問題を解決する動きの中で、これまで培われてきた「共助」をいかに維持できるか、世代や領域を超えて、豊かに暮らし合うことを、身近な地域社会で学習できる機会を大いに期待していた。

静岡県の地域特性をもとに、住民一人一人が、実践し、体験しながら学習(理論化)する、また理論を実践することを「福祉文化」と読み取りながら、そこには「専門性と市民性の融合」による地域づくりをかすかに期待をしていた。学会は、主な事業として、全国各地で「現場セミナー」を開催していることを知った。当時の記録から、学会の「現場セミナー」は、主に福祉施設において開催されているように感じた。

平成7年度(1995年)静岡県で「第11回現場セミナー」開催の要請があった。果たして、静岡の特性をもとに、「福祉文化」を学び合う現場セミナーを開催することが出来るか、多少の不安を抱きながら、「現場セミナー」実現に向けた道程を大切に、県内各地の地域活動実践者等に広く協力を呼び掛けることにした。当時を振り返ると、まず、福祉文化を学び合う「第11回学会現場セミナー」開催に向けた議論の最中、平成7年(1995年)1月17日に「阪神淡路大震災」が発生した。

改めて、「阪神淡路大震災」の生々しい教訓をもとに、「災害」をより身近に議論を展開して「東海地

震」への備えを強固にしていこうと「阪神淡路大震災に学ぶ—災害と福祉文化—」をプログラムに加えることにした。有志約50名が、当日に向けて「実行委員会」を積み重ねながら、当時、主に高校生が中心となって、精力的に取り組み、改めて、地域学習とは、関係者だけの努力ではなく、世代を超えて、地域の共通課題を共有し、それぞれの立場で課題解決に向けた取り組みをすることを認識した貴重なプロセスであった。高校生は、大人集団と学び合うことで、地域参加活動に向けて大きな自信につながったと意見を述べた。企業市民の立場で参加された方々からは、企業感覚により、効率よく福祉活動を展開するノウハウを提供できることを確認できたと言っていた。当時、阪神淡路大震災政府復興委員の立場から、学会会長 一番ヶ瀬康子先生の基調講演は、「21世紀に向けて 福祉文化を拓く—阪神淡路大震災の体験をとおして—」を語っていただくことになった。この時代は、静岡県内各地において、静岡県教育委員会、静岡県ボランティア協会、県・市町村社会福祉協議会が連携し、福祉・ボランティア学習(活動)の推進により、高校生の地域福祉実践活動の動きが盛んな時期でもあったため、大いに、運営を円滑にすることが出来た。

静岡県民に、この機会に“福祉文化”発信するには、住民が暮らし合う身近な地域社会において学び合う場を検討しようと、若い層(高校生)から先輩市民実践者70名が賛同し、幅広い年代層で実行委員会を立ち上げ、開催実現に向けた議論を重ねた。精力的に「施設の社会化」を目指し地域福祉の拠点とした役割を果たしている、浜松市・浜松こども園の「福祉施設の実践発表」をプログラムにした現場セミナーにする2日間の「第11回学会現場セミナー」の開催が実現した。セミナー当日の運営には、開催地元浜松市近隣の高校生・専門学校学生がボランティアとして参加され、「若者と福祉文化」を浮き彫りにしたセミナーであったとも強調出来る。定員を大幅に超えた延べ460名余の参加者が全国各地から“福祉文化”を学び合った。



*基調講演は、一番ヶ瀬康子学会会長が熱い思いで「福祉文化」を語る

2日目は、各分科会助言者によるリレートークでまとめる

2 結成当時の「会員対象アンケート」を繙く

地域コミュニティ活動などを推進していく上で、一番課題になるのが、いかに会員一人ひとりが会の運営や活動に参画していくかである。私たちの活動目的は、単に個人レベルの資質向上ではなく、地域性を世代や領域を乗り越えて相互理解していくことにより、自ら実践の場で実証していくことにある。ここで、会発足当時に会員対象に実施した「アンケート」結果の「自由な意見—本会に期待すること—」を紹介する。

「幅広い分野の様々な年代の人が、積極的に参加できるような会の運営を望む」「まったく、福祉について、実務的な経験のない素人が、自由に意見交換できるように願う」「決まった内容を話し合うことなく、なんでも自由に語り合える仲間の集まりを期待したい」「対等に、若い人と活発に本音で語り合えるような会の運営を望む」「小さなことでも、多角的な話題を積極的に語れるようにしてほしい」「一方向からだけでなく、さまざまな分野から語り合いたい」「県内各地で実践活動を学べるフィールドを開拓していきたい」「一人一人が、主体的に参加できるようにしたい」「小グループの話し合いの場を持っていただくと話しやすい」「他団体と良い関係で運営をしていくことを望む」「肩の凝らない地域実践活動をしていきたい」

3 本会結成時のフットワークを活かし「第18回日本福祉文化学会現場セミナー」開催実現

平成8年9月本会発足以降3年目の平成11年度には県内外から90名が会員となった。学生の変動や異動による退会届も激しかった。こうした本会の動きの中で、「日本福祉文化学会」から、ねむの木学園の宮城まり子先生に学ぶ「第18回静岡現場セミナー」開催要請があった。

本会の結成につながった「第11回学会現場セミナー」開催実現の時は、根本的に異なる取り組みをしていかなければならない。つまり、「静岡福祉文化を考える会」組織自体をもって、県内関係機関・団体に協力を呼び掛け「協働」による「静岡発(地方発)福祉文化の創造」による開催を実現しなければならぬ大きな課題があった。本会結成4年の実績をもとに、更に、この機会を大いに活かして、「静岡発(地方発)福祉文化の創造」に全力投球していこうと、本格的な準備に取り掛かった。

主に、下記の各協議を具体化し、「現場セミナー」開催を実現した。

- (1) ねむの木学園 園長 宮城まり子先生 → 開催内容の理解と協議、会場提供の有無等
- (2) 開催地元掛川市社会福祉協議会 → 全般協議(参加者の送迎方法、広報啓発、宿泊手続き等)
- (3) 東海福祉専門学校 → 当日の案内誘導等学生の協力協議
- (4) 掛川グランドホテル → 県外参加者の宿泊受け入れ協議(割引交渉)

学会事務局との最終協議により、「開催要項」が出来上がった。



これまでの30年間、「静岡発 福祉文化の創造」を県内各地に発信できたか、身近な地域を参加者とともに語り合う「第24回静岡県福祉文化研究セミナー」と「第2回公開型研修会」の御案内

● 「第24回静岡県福祉文化研究セミナー」

「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに開催した「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」を「第1回研究セミナー」と位置づけ、静岡県から「福祉文化の火」を消すことなく県内外に発信しようと学び続けて、ここに24回目のセミナー開催。

これまでの地域実践活動を振り返りながら、身近な地域で、いかに支え合いをすることが出来るか、語り合い、「共助社会の再構築」に向けて、「今、あなたの地域は何色ですか」、そして「どのような色にすることが出来ますか」のアイデアを出し合いながら、さらに、「私にとってご近所福祉とは」を学ぶ。

*日 時 令和7年11月29日(土) 13:30~15:30

- *プログラム (1) 基調報告 「地域活動の融合と協働を探る」
(2) 円卓トーク 「私の地域を何色に変えられるか」

● 「第2回公開型研修会」 本会30年間の福祉文化実践活動を検証する研修会「30年誌」で検証

*日 時 令和8年 3月 7日(土) 13:30~15:30

- *プログラム (1) 基調報告 「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡」
(2) 円卓トーク 「地域活動のプロセスを探る」

◆いずれも、会場は、静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」(電話054-367-2878)です。

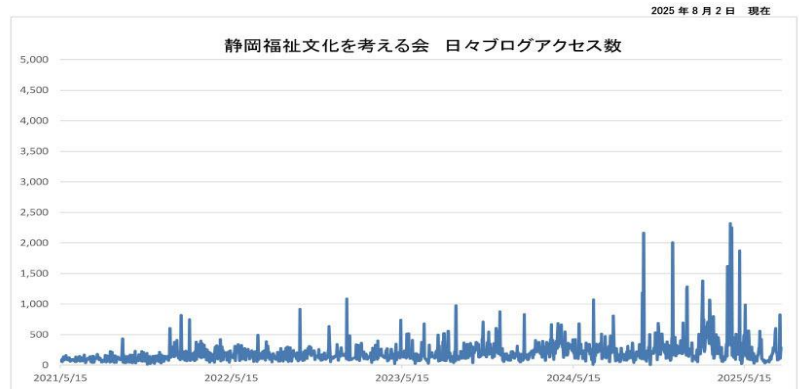
問合わせ・参加申込先: 〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
TEL & FAX: 054-624-1924 携帯 090-4861-4547 Email monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

「ブログ」アップで、福祉文化実践活動「見える化」「わかる化」の情報発信中

「静岡福祉文化を考える会」では、日常的に「委員会議事録」「機関誌 OUR LIFE」「各種調査」「活動関連資料」等を“ブログ”にアップし、「見える化」「わかる化」に努めている。右の表は8月1日現在のブログアクセス件数状況である。

協働団体：焼津福祉文化共創研究会」の全面的な協力と支援をいただき、データ入力作業を継続している。

身近な地域活動への関心の高まりがこうした統計からも伺える。



☆☆☆☆ 事務局日誌拝見(5/24~9/01) ☆☆☆☆

05/24	第225回委員会開催 2025年度 第1回公開型研修会開催(本会全体会)
05/30	「OUR LIFE157号」発行・配布、メール送信実施 研修会参加者への情報提供 会員宛に、全体会及び各種資料送付、および当面の連絡文書送付
05/26	「OUR LIFE157号」編集・発行作業
06/01	会員及び協力者に「第1回公開型研修会(全体会)関係資料」「OUR LIFE157号」発送
06/13	袋井市地域福祉連絡会において、本会活動および「ご近所福祉」について説明
06/14	6月焼津福祉文化共創研究会定例会で、「本会30年誌」に「第9章 研究会との協働の取り組み」を組み入れることを了解いただく
06/18	「かるた活用事例集」増刷30冊納品(25,000円)順次、発送作業をする
06/21	「30年誌」の執筆状況について協議(今後の見通し)
07/07	県コミュニティづくり推進協議会より、2025年度コミカレ研修ポスターに「若者発ご近所福祉かるた」を活用の中出有(了解する)
07/08	焼津市内の活動実践者より「若者発ご近所福祉かるた」の借用申し出あり(7/17使用)
07/13	「第430回浪蔵劇団公演」見学(事前に、関係方面・マスコミに周知連絡)
07/20	日本福祉文化学会研究紀要編集委員会より、「静岡福祉文化を考える会組織化の意義—30周年を迎えた静岡福祉文化を考える会のこれまでとこれから—」の寄稿依頼あり 10/30締め切り(了解する)
08/10	「30年誌」に関する協議
08/30	「公益財団法人愛恵福祉支援財団 社会福祉育成活動助成事業」申請手続き作業実施
09/01	「OUR LIFE158号」編集作業(~9/10) 「30年誌」の印刷業者発注作業前の最終調整作業(~12/10) 会員及び関係者等に「第24回福祉文化研究セミナー」案内及び「OUR LIFE158号」を発送する。

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、「静岡発 福祉文化の創造」をもちに、関係団体との協働で、身近な福祉問題を活動テーマに、30年間、福祉文化実践活動を展開中。

特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」を基に、活動を具体化している。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」。

更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの具体的な柱立てにより活動に取り組んでいる。◆ブログにより、広く本会活動を発信中。

◆関心のある方は、下記に問い合わせを。

■会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

■問い合わせ・連絡先：424-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

尊い、「赤い羽根共同募金助成事業」により、この10年間で、300セット作成した「若者発ご近所福祉かるた」は、各地から活用報告が届いている。更に「ご近所福祉」の推進を大いに期待したい。3年前から編集作業に取り組んできた本会『30年誌』は、12月末に発行の見通しとなった。「静岡発福祉文化の創造」をしっかりと検証したい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード